#### 事後評価報告書

#### 1. 基本情報

- (1) 実行団体名:龍ケ崎市 B&G 海洋クラブ
- (2) 実行団体事業名:障害児とひとり親家庭の余暇活動支援
- (3) 資金分配団体名:公益財団法人ブルーシー・アンド・グリーンランド財団(略称:B&G財団)
- (4) 資金分配団体事業名: 障害児等の体験格差解消事業
- (5) 事業の種類:草の根活動支援事業
- (6) 実施期間:2020年4月~2023年3月
- (7) 事業対象地域: 茨城県

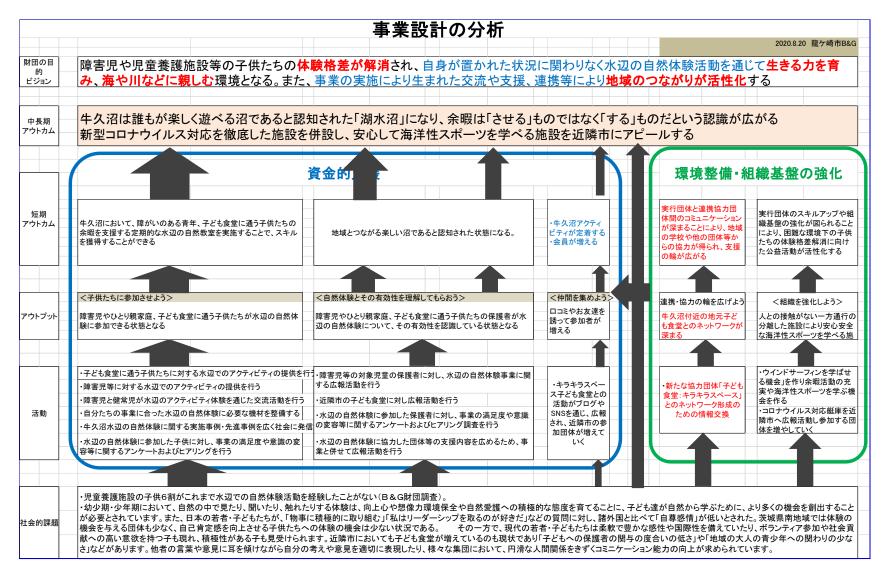
#### 2. 事業概要

- (1) 社会課題と直接グループ
  - <社会課題>
    - ・子供の心身成長に効果がある自然体験活動の不足していること。
    - ・子供の自尊感情が低いこと。
  - <直接グループ>
    - ・障がい者団体 「つくばユースMDC」
    - ・子供食堂「キラキラスペース」

・協力団体 「一般社団法人スポーツプロモーション」「つくば学びの杜」

#### (2) 事業の概要

**●**TOC



#### <中長期アウトカム>

牛久沼は誰もが楽しく遊べる沼であると認知された「湖水沼」になり、余暇は「させる」ものではなく「する」ものだという認識が広がる事で、子供たちに海レク体験の機会を増やし、本活動に地域の大人も興味を持ち、協力するようになることで様々な集団の中で円滑な人間関係を築き、コミュニケーション能力が向上する地域社会を目指す。

#### <短期アウトカム>

- 1、牛久沼において、障害のある子供や困難な環境にいる子供たちに余暇を支援する定期的な水辺の自然教室を実施することで、地元に慣れ親し む環境作りが出来る
- 2、本事業の活動に協力する地域の大人が増える
- 3、参加した子供たちと地域の大人が一緒に活動するようになる
- 4、自然体験の場所という意識が広がり自主的に活動する人が増え、活気のある牛久沼を創出する

#### <活動>

#### 夏期期間5月~10月

- ①水面清掃活動 (プラスチックパトロール)
- ②保全活動(牛久沼畔草刈り、ビーチクリーン)
- ③地域協働(ウインドサーフィン少年団、スタンドアップパドルの体験)

#### (3) 出口戦略

任意団体から NPO への法人化により、助成事業への申請や寄付活動が行いやすい団体へ組織基盤の強化を目指す。

#### 3. 事後評価実施概要

#### (1) 実施概要

① どんな変化をこの事業の重要なポイントとして設定し評価を実施したのか

参加した子供たちの自尊感情等非認知能力とコミュニケーション能力の向上を重要ポイントと設定し、B&G 財団が実施するアンケートや子供や保護者、協力者へのヒアリングを通じて評価を行った。

そのため、障がい者やひとり親家庭などの体験に格差が生じやすい家族向けにウインドサーフィンをはじめとする海洋性スポーツ活動や環境問題も併せた地域の清掃活動などを企画した。

- ②どんな調査で測定したのか※調査概要の記載の仕方は末ページ記載例参照 各年度の活動開始前と活動終了時に B&G 財団のアンケートを実施した。結果については、事業終了時に B&G 財団から提供される こととなっている。
- ③調査結果をどのように深掘りし価値判断をしたのか 結果を確認後、参加した子供の保護者や協力者にヒアリングを行い、具体的に子供にどのように変化が生じたを確認することで、事業目標の達成について判断することとしたい。

#### (2) 実施体制

外部評価 総合型地域スポーツクラブ 一般社団法人スポーツプロモーションいばらき 理事 土井畑幸一郎氏に依頼 内部評価 龍ケ崎市 B&G 海洋クラブ 代表 海老原徹が実施

#### 4. 事業の実績

- 4-1インプット(主要なものを記載)
- (1) 人材 海洋クラブ運営スタッフ及びクラブ員 10名 活動時の器材運搬補助やウインドサーフィン等のスポーツ活動指導、清掃活動、映像記録等など。(主に活動していたメンバー の人数や役割など)
- (2) 資機材(主要なもの)プレハブ倉庫、ウインドサーフィンボード 3セット、スタンドアップパドルボード 2セット、
- (3) 経費実績 助成金の合計(円)
  - ① 契約当初の計画金額 2,198,000 円(評価関連経費含む)及びコロナ緊急支援 3,773,000 円 合計 5,971,000 円
  - ② 実際に投入した金額 5.971,000 円 ※精算作業中
- (4) 自己資金(円)
  - ① 契約当初の自己資金の計画金額 350,000円
  - ② 実際に投入した自己資金の金額と種類 350,000円(予定、現在精算中) 当クラブ活動費から支出
  - ③ 資金調達で工夫した点 活動費からうまく回せないときは、個人資金で立替
- 4-2活動とアウトプットの実績
- (1) 主な活動

プラスチックパトロール (湖面清掃)

ウインドサーフィン少年団

サップ体験活動

カヤックペイント及び試乗会

(2) アウトプットの実績

【アウトプットに関する記載項目】

#### ① アウトプット ※目標達成時期は、1~3項目が2023年3月、4・5項目は2021年8月。

短期アウトプット	指標	初期值/初期状態	目標値/目標状態	実績値/実績状態	
障害児や困難な環境等の子供	①水辺の自然体験に参加し	①地域全体で10人	①地域全体で30人(初期	① 2022 年度	
たちが水辺の自然体験に参加	た対象となる子供の数	②地域全体で5人	値から3倍)	対象児童 60人	
できる状態となる	②水辺の自然体験を見学し		②地域全体で15人(初期	健常児 230人	
	た対象となる子供の数		値から3倍)	成人 82人	
				保護者・スタッフ等	
				145 人	
				② 20人	
障害児や困難な環境等の子供	①水辺の自然体験を見学し	①地域全体で 10 人	①地域全体で30人(初期	1、0人	
たちの保護者や関係者が、水	た保護者の数	②満足度調査(ベースラ	値から3倍)	2、見学した保護者がいないた	
辺の自然体験について、その	②水辺の自然体験を見学し	イン調査 "	②満足度調査(エンドライ	め、調査できず。	
有効性を認識している状態と	た保護者の満足度"		ン調査を行いベースライ	※集計表から	
なる			ンと比較する)"" "		
本事業に興味関心を示す地域	①海レクや本活動を見学す	①地域全体で5人	①地域全体で 20 人	① 29人	
の人が増える状態となる	る地域の人の数			市民団体や他団体	
				稲敷5名、龍ケ崎JC 2名、地	
				域観光団体1名、ボーイスカウ	
				ト9名、つくばMDC4名、つく	
				ば学びの杜、自治体など 8名	
新しい社会的距離が保たれる	①周知させるチラシ、ポスタ	①未実施	① 5 回	② 7回	
施設の中で体験者や体験団体	ーの配布の回数			・5/29 プラスチックパトロー	
が増加し活動が前進していく				ルチラシ配布	

状態となる				・6/11 プラスチックパトロール
				チラシ配布
				・7/21~7/25BG 塾チラシ配布
				・8/14 ごみゼロチラシ配布
				・8/24 商業施設イベント参加チ
				ラシ配布
				・9/24 プラスチックパトロール
				チラシ配布
				・12/29 ごみゼロ・草刈りチラシ
				配布
新型コロナに対応した安全な	①三密対策や消毒等の対応	①三密等の対策が出来	①三密等の対策により安	休眠預金での助成による倉庫建
活動となる	により安全に活動できる	ていない状態	全に活動ができる状態	設での参加者同士の空間の確保
				や消毒等による三密等の安全対
				策で新型コロナの感染者を出す
				ことなく活動を実施することが
				出来た。

#### 4-3外部との連携の実績

▶ 行政、企業、NPO、アカデミアなどステークホルダーとの連携や対話についての工夫について

龍ケ崎市魅力創造課と打ち合わせを密にし、市長も来場してウインドサーフィンの体験をしていただいた。また市の直轄するNPO法人理事となり、市民活動センターで行う各団体代表の円卓会議に出席するようになった。また円卓会議内で牛久沼魅力発信プロジェクトをスタートさせ代表に就任した。つくば市のフリースクールなどは学校訪問しスタンドアップパドルボード(SUP)の陸上講習を行った。朝からやらない等、なるべく相手のペースで事業ができるように時間割など工夫した。

▶ 市民参加について、合意形成のプロセスの実施について

各団体が集まる円卓会議に出席し、事業等の説明を行うなど合意形成に努め参加者を集った。また、地元NPO番組でPRを行うなど参加者だけでなく協力者も含め事業協力者を募った。

▶ 包括的な連携、コレクティブインパクトによる事業組成を実施した場合、その仕組み作り工夫について 連絡を定期的に取ったり SNS 等で発信、休眠預金で作成した冊子を配布し活動への参加を呼びかけたりした結果、活動に共鳴し参加して くれるようになった地元の大人も増え、協働するようになり協力者、会員が増えた。

#### 5. アウトカムの分析

#### 5-1. アウトカムの達成度

(1) 短期アウトカムの計画と実績

#### 【短期アウトカムに関する記載項目】

※目標達成時期は、1・2項目が2022年11月、3・4項目が2023年3月。

		· ·		
短期アウトカム	指標	初期值/初期状態	目標值/目標状態	実績値/実績状態
牛久沼において、障害のあ	水辺の自然体験に継続して	子供の継続参加に対する	子供の継続参加に対する	B&G 財団実施のアンケートでは、満
る子供や困難な環境にいる	参加を希望する障害児等の	満足度等の意識が低い(べ	満足度等の意識の向上 (エ	足度に該当する設問が「自己効力感尺
子供たちに余暇を支援する	満足度等の向上	ースライン調査)	ンドライン調査を行いべ	度」「生活充実感尺度」になる。その結
定期的な水辺の自然教室を			ースラインと比較する)	果として、自己効力感については有意
実施することで、地元に慣				に改善した点は見られなかったが、生
れ親しむ環境作りができる				活充実感尺度については事前から事
				後にかけて向上が見られた。
				また、保護者へのインタビューでは
				「楽しかった」「次はいつ」「またやり

				たい」と言う子供が多く、子供の反応
				からは高い満足度が伺えた。
本事業の活動に協力する地	参加の保護者や団体関係	地域の人が活動に未協力	地域の人が活動に複数回	龍ケ崎市の主導で行われる円卓会議
域の大人が増える	者、地元の本事業に協力す		協力する	等での休眠預金事業の説明や活動参
	る大人が増える			加者の増加に伴い通りかがりの方が
				興味を持ち、活動の手伝いに来てくれ
				るようになるなど、まだ実際の協力者
				の人数は 3~4 人と少ないが、徐々に
				周知の効果が表れていると感じてい
				る。
参加した子供たちと地域の	子供たちと地域の大人が一	地域の人が活動に未参加	地域の人が活動に複数回	協力者が増えてきたことで、子供と大
大人が一緒に活動するよう	緒に活動する機会が増える		参加する	人の交流が増え、器材の運搬など一緒
になる				に行うようになるなど、会話の機会が
				増えている。
自然体験の場所という意識	会員の数	週末や放課後に集う場所	会員数の増加	会員の数もコロナ禍にも関わらずこ
が広がり自主的に活動する		となる		の3年間で家族会員が7組増え、保護
人が増え、活気のある牛久				者の協力もいただけるようになった。

#### (2) アウトカム達成度についての評価

・牛久沼を活動拠点として、余暇活動は「させる」ものではなく「する」ものという認識のもと、障害等に拘わらず子供たちに海洋レクリエーションの提供の機会を増やすことで、子供同士あるいは地域の大人たちも含めお互いに協力することで人間関係を築き、子供も大人もコミュニケーション能力が向上する地域を目指すことが中長期アウトカムである。本事業の短期アウトカムについては、中長期アウトカムに至る道のりであるが、概ね達成できたと評価している。また、達成できたことで、次へのステップとなる本団体の法人化を目指し、

さらなる活動の拡大に向けて協力者等を増やしていく努力を重ねていく。

#### 5-2 波及効果(想定外、波及的·副次的効果)

・参加している子供たちは活動に参加することにより、学校以外の仲間と毎週触れ合うことで互いを尊重し補う役割を果たせ社会性が向上 した。コロナ化において学校に行く意味が分からないと言った社会情勢の中、今活動は居場所的な役割も果たすこともでき毎回参加する子供 たちは交流を深めた。近所の大人が協力し、環境活動やクラブの運営に参加する協力者ができた。

#### 5-3. 事業の効率性 ※補足資料参照

・本事業のコロナ特別支援により、プレハブ倉庫を建設していただいた。その倉庫をうまく活用することで、活動の事前レクチャーや終了 後の振り返りを行うことができるようになり、水面活動が効率的に実施できるようになった。

#### 6. 成功要因·課題

水辺事業が身近な存在になり参加者が増え、定期的な活動であると認知された。

皆が軽装であり、気温が低かったり曇り空などウエットスーツが無かったり、弊団所有のものではサイズが合わないなど事業途中で終了になるケースがあった。秋までの活動を想定していたが年間を通じて活動を続けたいこども達にウエットスーツ、ブーツ、グローブなど活動に必要な備品を揃えることが出来なかった。環境活動と体験活動を合わせた水上清掃は活動の軸に成長をしたが、参加費を収受する事はない。

#### 7. その他深掘り検証項目(任意)

#### ・プラスチックパトロール事業

本事業はスタンドアップ・パドルボード(SUP)を使った水面清掃であるが、この活動では海レク体験と環境学習を兼ねた学習となり、子供たちが水に親しみながらも牛久沼の環境状況を見聞する機会となり、自分たちの活動が環境保全に役立つことを学び、自己成長に役立っている。検証としては、事業終了後のインタビューでの子供たちの回答である。

#### ・カヤックペイント

古く、使用されなくなったカヤックに子供たちが絵を描くことで、新たに使用できるように復活させ親子で乗船する SDG s に沿った企画であり、どちらの活動も牛久沼を地元のアクティビティエリアだと認知させる有効な活動であった。

#### 8. 結論

8-1事業実施のプロセスおよび事業成果の達成度の自己評価

	多くの改善の	想定した水準	想定した水準	想定した水準	想定した水準
	余地がある	までに少し改	にあるが一部	にある	以上にある
		善点がある	改善点がある		
(1)事業実		0			
施プロセス					
(2) 事業成				0	
果の達成度					

#### 8-2事業実施の妥当性

アウトカムの達成度やアウトプットの実績から、妥当であったと判断する。

#### 9. 提言

本事業により、事業が増え、参加する大人の数も増え、NPO 法人化を目指す目標が持てるようになった。法人化は現在進行中ではあるが、当団体の今後の組織基盤強化となり、自治体や各種助成団体の補助金や助成金を申請しやすくなることで、組織の発展に寄与することができる。 今後の休眠預金事業の助成を受ける任意団体に対する提言として、休眠預金の助成で団体の基盤(器材整備等)を強化するとともに、JANPIA によるプロボノ支援なども活用することで組織基盤の強化が計れるので、地域の協力者や資金分配団体だけでなく JANPIA の力も借りるとよい。

#### 10. 知見·教訓

・この3年間は、事業開始に合わせてコロナ禍になり、コロナ対策を行いながらの事業実施であった。しかし、屋外活動が中心ということもあり、 安全対策を行うことで事業実施によるコロナの発症を防ぐことができた。

大人や子供、障がい者などによりスタッフ数(配置)が変わること、道具の運搬方法も変わり、適材適所の人材配置が事業の鍵となる自然体験 活動はどのような事業を実施する場合でも、リスクの洗い出しとそれに対する安全対策が必要であり、それをスタッフ全員が共有すること、また子供でも大人でも参加者に理解させることが重要である。

#### 11. 資料 (別添)

- 1、休眠預金事業により作製した映像は、JANPIAに提出しています。
- 2、本事業により作製したチラシは、別途添付いたします。
- 3、スポーツ振興賞 表彰状
- 4、外部評価

以上

## 龍ケ崎B&G海洋クラブ様 事業評価

総合型地域スポーツクラブ 一般社団法人スポーツプロモーションいばらき 理事 土井畑 幸一郎

#### 1. 社会課題に対するアプローチの妥当性

龍ケ崎B&G海洋クラブが実施した事業は、設定する社会課題へのアプローチとしては概ね 適切であった。

本法人は茨城県稲敷市を拠点とする総合型地域スポーツクラブで、100名程度の子どもたちが会員として在籍している。現在の子どもたちと多く関わる中で、子どもたちが感じる生きづらさをひしひしと感じている。具体的には、同級生と競い、比べられる環境の中で、より"優れていること"が求められていることや、大人の思い通りに動くことを強要され、枠にはめられていることなどがある。特に障がいのある子どもたちは、大人の望ましい枠にはめられることが多い。そして、比較され、大人の枠にはめられてきた子どもたちは、自ら新たな挑戦をしようとはせず、体験の機会を自ら無くしてしまう。

そういった子どもたちの拠り所となり、逃げ場となり、居場所となることのできる、スポーツ分野からのアプローチとして、個人スポーツがある。個人スポーツは、過去の自分と比べて自分の成長を実感し、人と比べる必要のないスポーツである。スタンドアップパドルボード(以下、SUP)についても、現代の子どもたちの生きづらさをやわらげ、居場所となることができる個人スポーツのひとつである。もちろん、他者と比較せず、過去の自分と比べるため、自己肯定感も高めることができる。

また、実施したプログラムとしても、概ね適切であったと考えられる。まず、本クラブのイベントについて、基本は無料での開催であったこと、またプラスチックパトロールのようにSUP体験と自然環境の美化活動がセットになっていることが、アプローチとしては優れていた。自然環境の維持や美化といった活動は、子どもたちにとって自分ごととして捉えることは難しく、どうしてもやらされる感覚が生じてしまう。しかし、プラスチックパトロールのように、活動がセットになっていると、「次に遊ぶ時も奇麗な状態で遊びたい」という環境美化への必然性が産まれる。これが、自然を大切にする心を育むことに繋がっていくと考えてる。

一方で、アウトドア・スポーツの限界点として、気温・天気・風などの様々な要因に左右されてしまうことが挙げられる。SUPの場合は、特に気温が高い場合がある。気温が高い場合のプログラムとして、龍ケ崎市内のショッピングセンターにおいて、小学生の夏休み中にB&G塾とカヤックペイントのイベントが開催されていた。これにより牛久沼やSUPの活動に興味を持った子どもたちがいたことから、夏場のプログラムとしては適切であったと考えられる。一方、風が強い日の実施は湖面が波立ち、風に流されてしまうなどのリスクがある。そういった悪天候時のプログラムについては、十分でないと考えられた。

最後に、龍ケ崎B&G海洋クラブが実施したプログラムの信頼性については、高いと考えられた。まず、SUPの習得の容易さが挙げられる。特に、波風の無い湖面において、基本的な持ち方や乗り方のレクチャーのみで、特別なトレーニング無しにSUPに乗り、湖面を自由に移動することができるようになる子どもがほとんどであった。SUPを楽しく乗れるようになると、牛久沼を楽しく遊べる水辺環境と認識が変わるため(実際に、子どもたちの声を耳にした)、意識変容も比較的容易に促せるといえる。そこに、プラスチックパトロールなどの環境保全アクティビティが加わることで、自然からより多くのことを自分ごととして学ぶことができる。 すなわち、SUPが入門プログラムとして敷居の低いアウトドアスポーツという点、そこからの意識変容まで含めて、非常に再現性が高く優れた活動であると言えた。

#### 2. 短期・中長期アウトカムに関する評価

短期アウトカム:達成できた 中長期アウトカム:不明

短期アウトカムについては、達成できたと評価している。普段の生活をしている中で、牛 久沼に入水する機会は滅多になく、入ったことがある人は稀である。また、入ることのでき る水辺環境だとは思われていない為、入ることに抵抗感がある人がほとんどである。

そんな牛久沼について、SUPの活動を通して入水する機会があったこと、加えてそこで楽しくSUPの活動をすることで、入水への抵抗感が無くなっていた。また、そういった先入観の無い子どもたちは、牛久沼でSUPだけでなく泳いだりもしており、楽しく遊べる沼という印象が着いたと言える。

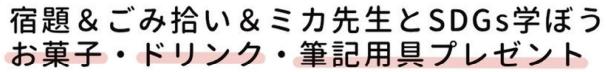
また、SUPの活動を通して、もちろんスキルを獲得することができた。また、獲得の過程 についても、厳しく指導するのではなく、参加者それぞれのペースで練習し上達することが できていた。 一方、中長期アウトカムについては、具体的な指標として言語化することが難しかった。 加えて、実際にプレーポストで調査していないように思われる。そのため、中長期目標が達 成できたかについての評価は分からなかった。











### 時間割り

10:00-11:00 夏休み学習

11:00-11:15 もぐもぐタイム

11:20-12:10 夏休み学習

12:10-12:50 もぐもぐタイム

13:00-13:15 SDGs時間

13:15-13:30 Plastic Patrol

14:00 終了!

場所

龍ケ崎市サプラスクエア

日時 サプラモール1階パティズ横特設会場

7月21日(木) 22日(金) 25日(月)

時間 10:00-15:00

7月23日(土) 24日(日)

時間 10:00-12:00

参加費

100円で何日でも利用可

#### どんなことするの?

夏休みにサプラに集合してみんなで宿題やっちゃおう! もぐもぐタイムはおやつ時間♪ SDGsのお勉強ではプラスチックパトロールを通し 海洋ゴミやプラスチックについて考える時間だよ!



主催:龍ケ崎市B&G海洋クラブ

Mika SUP CLUBミカサップクラブ

全を変える 連絡:rbgc200@hotmail.com (エビハラ)







# 子どもの成長が喜び

が、メンバーとの空間を通し 活動に参加する子どもたち 台中的が人にまで拡大した。 の代表を持める。10人はらず を見るたびに、一貫がを抱く、 ー・スポーツ体験を関係する 報を始からなり用はクラブ とのウオータースポーツを の最かのはするケーフィンは、昨年には他の数を発わた動物 子ともたちに数えたい

家を回り、活動を自心を受いた。 短い付いたことで、合け取り の勢ら、中久田のほど打に見 「年久用は続いし近い ずっ

所が存在にあったこと言る。 も一緒になれる。ころいう意 と目やかで、初心をも上海の の上に立ってパドルをこいで 合わせたような「ウインドウ ヨットとサーフィンを積み かで改善に置わり、自信を持 ニケーションを取っていくな すのが意味な子でも、コミュ

分のの」と何じる。 取事所在 担しそうなれる可能性は十 シスポーツをしている ボタ や選手市は常に誰かしらマリ 「例えば、神田川山の鎌倉市 生な用への動詞は大さい

悪む「スクンドアップパドル

いやイベントの時間にも会会・クラブへの限い合わせはも

I,com (m/ma)

海老原 微头(51)



# 令和3年11月25的(地域面)

も新しく様でた。「学校の様

堂にも魅力していったい と

クラアの活動には、 戦のな

▽所有問題が決策 **学がまや近端化技力** 新型コロナウイルス戦

年久市・は「双人たちと 何する。 メンバーで構立 但美國際代要(51):取申 院供する「難ケ崎市日本 子とレジャー体験などを フ軸市内に入る牛久用 ・も世界の好雑漢」と種 1、水に頼しむには全国 ローは「牛久好は概やか と解除クラブ」の活動だ。 出る日本、金女



様子崎市B-G海洋クラブ 様子崎市B-G海洋クラブ

からなけ、カヤックが無 回ころから所有権を主張 を含むし町1村8大学で 共有していた。対して、 地元土地改良区も前の中

日かずの前合で共同し、 れた。市と町が牛久田を 12月に阿州町と土地改会 以との関で台灣費が明に 距議の末、2010年

に合わせた9年を開作す 悪質は約分億円と見積も **発表し、他間は表別的は** 

を確てる基本計画を八台

した。国土改造省と共に

(地域面=3回統き連載の上回)

の国連を等沿いに連の歌

来せなければ最も付いて 方向性の明確化は無路

牛久沼の活用 歩気相に置を向ける。たは胸端、町とも蓋をそ交に、種を整常は十分に落ったが、たは胸端、町とも蓋をそ交 用を始れなかった。

帰實の問題が終し ンドラの間」と称された。であち聞いた。 市場の記憶などによる

既在の数ケ統市と何内町の一季が穏か出せない。 ▽「100年先」 地は7年、牛久田田野 観は越えた。だが、欧、厚上し、精製師制は末定

市長選を前に

能ケ崎の行力

長による金属は、18年に が主席した関係市町の日 が見つかるなどの機構が された。だが、軟務機能 に加え、予定様に複数的 広域連携も選挙は、市

アンは辺年度内に先送り 2回目の開催を見たのか

る。広場選問しても、 他の世紀体にメリットを る。「温の訳では、 四さのトレイルなどがほ 「100年先につながる 複数の市幹部らは耐え 命和3年/2月4日月

牛久沼で水上スポ 龍ヶ崎市民団体が普及に力 12日中間、個子間形佐賀一むのかほとんど、単在、年

は一般の人に広く四月を前一年しんだ。
シドナーフィンとしても使にとうまっていた。クラブ「ら約3人が水上での飲意を「世界情景等等者」が、サイ 好表が個人的に美しむがは、クラブに所属するメンバー・人「886分話」(東京ない場所がありながら、堂「ボーンとし于人気がある。)様を育成を担えく其間は続 で初めて金銭子はの「メガ 水上レクリエーションを通 浅瀬の環境生かす

いひか」がお日間えした

たと話す

代表が、水上アクショビ ティーの意気に取り組んで

びで聞く水をまずードがす

Sで馬牌クラブのみとい

牛久田では あ日、長内

いる。行行には他内の財団一立名。パールをこれで概か

す「スタンドアップパドル いずいから、ボードの上に一つ。

からからく、 を見しづらい

ため、前部にでから水上ス

した頻繁づくりや客か年の

ート、小自には特別を受け、其代表に称い、取手而・は、足を切ってしまうような難、St. (約本限を)フラブは呼呼ら発にスター中連れなどが需要も、勝宅・昔けられるぐらいの成さ、ecanotis27種をmolificoに、いており、近畿地域から集)、年久所はよどもでも足を、の続い合わせはミメールをに置った。 報みを整備していく」と方 しく遊べる場所にする取り 住として、もっと信仰に表

(社会面

考え、提回既を練型もになり入浴では戦士を紹から示しに贈った。

クラブや街によると、中 える最後のミロドイ教と共

市長は「議職のにざわいの の式目に出席した中山一体 イーの指導化を含る。 客間 めとする水上アクティビス 0つ10年度内の完成を目指 で努力していく。年久日の しんでもらえるようにな 整備を計画 SUPをはい 企城が人る概ケ輪市は、2 ったなし、「多くの人にあ をアピール、管師によって書物もない」と掲昇の理論 行政側も地域活性化の相 牛久府沿いに頭の駅の 令和元年5月13日村

×、ずれも茨城新闻×

で進む「スタンドアップ」とに立ってパドルをこい

茨

クラブ

が、

スポーツやレジャー

を通したまちづくりに貢献

の提供をはじめ、ウオータースポーツを取り入れた水面清掃 康産業団体連合会長賞に選ばれた。環境を生かした体験活動

した団体などをたたえる第10回スポーツ振興賞のスポーツ健

龍ケ崎市の牛久沼を拠点に活動する「龍ケ崎市B&G海洋

といった地域密着型の営みが評価された。

の事故防 大切さや北

着用の

# 救命 月同 衣 0 大 切 さ学 Š

協力を得て4日、「海の安上保安部と県水難救済会の上保安部と県水難救済会の 聖小 水難事故防止 ~ 教室

年生約110人が脈を着す 全教室」を開いた。5、

協力を得て4日、

学んだ。 使って 教室 昨年から体 を開いてい 同小では 今回は

どもとうこと。そしどもとうこと。そし

(黒羽根勝弘)

とげのあるとがった葉

」と語った。

々の業務や採用試験につい

や採用試験に

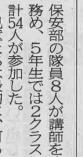
参加者は警察

聞き入ってい

取手市立取 する児童

> ケッ 計54人が参加 児童たちは最初に、 トを着用し、

事故に遭わないこと。 習ったことを覚えておきた 郎君(10)は「ライフジャケ 安心感があった」、 フジャケットは沈まなくて(10)は「背浮きよりもライ トの大切さが分かった。 5年生の屋代菜々心さん 森田哲夫校長は と、それぞれ話した。 「まずは 赤崎敏



く「背浮き」を体験。次に の流れを全員でつくり、 浮かび、最後はライフジャ こから逃げる体験などを行 の違いを体験した。 空のペットボトルを持って ペットボトルを使った 離岸流を模 それぞれ そのほ 何も

コや米国の乾燥地帯に

グループの遊川知久グル

同園の多様性解析・保全

ア長は「現地ではハチドリ

験資格(高卒·

資格(高卒・大卒見込み)相談会には採用試験の受

過去に開催されたイベントで舞男に成り切



つくば支社 土浦市 つくば市 牛久市 かすみがうら市 稲敷市 阿見町

美浦村 **2029 (822) 4567** 

ファクス

(823)6488

■常総支局 常総市

つくばみらい市 **2**0297 (38) 7155 ファクス(22)5051

■取手・

れてしまい見納めとなる」
こでは虫も寄りつかない。

次に咲くのは

用相談会=常総市水海道高野常総警察署と常総広域消防が

龍ケ崎支局

取手市 守谷市 龍ケ崎市 利根町 河内町 **25**0297 (72) 1139

# ュウゼツラン=つくば市天久保高さらどの花茎の先に開花したリ

# ユ 高さ5次 貴重な開花 頃

と消防、人材確保へ

学生向け合同相談会

かけて、 いる。

で、株の中心から花茎の 今年4月から2カ月

かないというリュウゼツラ かないというりょうだが を楽しませている。同園は 波実験植物園で開花した。 は15日ごろまで。 い花をつけ、 花を見られるのは珍しく 重な機会」と話す。 リュウゼツランはメキシ 一度しか花が咲 訪れる人の目 きているうちに見られて幸 来た山本渉さん(4)は「生 を出し、

花からは薄い甘みのある蜜 個ほどの花房が目を引く

納豆のようなにお

最初の花が咲き、現在は20 27がまで成長。6月下旬に がぐんぐん伸び、高さら・

いを発している。

た。警察や消

が直径1 がほどに広がった る。今回は22件の応募がズム推進機構が主催す 会と日本スポ ポーツ健康産業団体連合 クラブを支援する。 回連合会長賞を含む振風 (B&G財団、東京) 大賞1点に加え ーツ振興賞は、 ス が

市B&G受

来に牛久沼の環境を残しさん(52)=取手市=は活目されてうれしい。未 クラブのNPO法人化も 活動の輪を広げようと、 が増えれば」と語った。

東京ビッグサイトで開か 授賞式は27日、都内の 県内では過去に「アン ムタウン

る「ブル

少年の健全育成を推進す という。健康づくりや青

の海老原徹さん(右端)ら 龍ケ崎市B&G海洋クラブ

牛久沼

連合会長賞を受け れる予定だ。

(鈴木剛史)

地域密着の取り組み評価 ラブの活動について、 考委員会は「地域に根差 員6点が選出された。 、誰もが参加しやすい」

ーフィン、カァッ・ ーフィン、カァッ・ くしP

SUP

験活動ほか、SUPを用 いたプラスチックごみ回

収などを展開する。

20

21年度の活動には、

ベントが22、

1300人が参加

以下の子どもが対象。市民かれる。市内在住で小学生かれる。市内在住で小学生 で申し込む。受 が手作りした衣装を着て記

撞舞は、 雨乞いや疫病よ

撞舞に親しん

る子ども (龍ケ崎市歴史民俗資料館提供)

# 撞舞 手作 分味 衣装で記念撮影 わっ

同館2029

月曜休館

広げる「舞男」に扮するイ舞」で、高所で軽業を繰り 龍ケ崎市の伝統芸能 24両日、 馴馬 五穀豊穣の意味がある

事前に電話 ルス感染症の流行で中止がれている。新型コロナウイ る。 場。高さ14㍍の柱の上で矢の衣装を身にまとって登 続き、 を放ったり逆立ち 無形民俗文化財になってい と伝わる。国選択・県指定 ルの面をかぶり、 主役の舞男はアマガエ 3年ぶりの開催とな

先着1人まで 用意する。時 時半から各30 40だの3サ ぞれの時間帯 初めて企画 は100だべ でもらおうと

も個別相談会

周



スポーツ健康産業団体連合会会長賞 能ケ崎市B&G海洋クラブ殿

賞します 得ましたのでここにこれを 振興賞において優秀な評価を あなたは第十回スポーツ

令和四年七月二十日

益替夫不丁ツ健康産業団体連合会 会長斎藤敏 一體

